

第 53 回研究報告会(2023 年 7 月 24 日)屋井所長閉会挨拶概要

運輸総合研究所所長の屋井です。所長に着任してから初めての機会ですので、閉会に当たっての挨拶を申し上げるとともに、研究のあり方に関する考え方も少し御紹介申し上げます。

まず、お忙しい中コメンテーターとしてお越しいただいた兵藤先生、中村様、また、長時間にわたり参加いただいた多数の皆様、御礼申し上げます。おかげさまで安部客員研究員と邱研究員の研究発表および関連する議論を滞りなく行うことができました。

本日は、19 世紀に開発され、今から 50 年、100 年先も使うであろう地下鉄システムといういわば伝統的な技術と、これからどういふふうに進展していくか注目されるドローンという 21 世紀の新しい技術のそれぞれに関する発表がありました。これらに関わる私の考えを述べることで、挨拶にかえたいと存じます。

現代は、激変激動の時代で、最近では、AI 革命、テクノロジー革命、モビリティ革命など、革命という言葉がよく使われています。私も長い間、大学で、産学官連携という立場で、特に若い人たちの潜在力を発揮できるように、将来のキャンパス環境のあり方をいろいろ考えてきました。我々は、若い人たちの知恵、新しいアイデアに非常に期待しています。ただし、今の時代の変化の早さからいうと、単に世界を変えようとか、新しい良い社会にしようと言う掛け声だけで進めるだけでは足りなくなってきたと感じています。我々が住み暮らす地域社会の基盤を支えているインフラについて言えば、アジャイルだけではなくてしっかりと地に足のついた研究開発を支えていく、ある種のシステムが、そこには研究所も含まれますが、必要と強く感じています。

破壊的技術や破壊的なイノベーションが、未来の社会を作るのに何が必要でしょうか。HAKAI を SHAKAI にするための答えは、S で始まる、スケラブル、スマート、サステナブル、セレンディピティだったりですが、革新的な技術に対して我々社会が持つべき、今 1 番重要なことは、セレクト

ビリティ、つまり選択可能であると私は考えています。では、どうしたら選択可能になるのでしょうか。本日はその答えが P で始まるフィロソフィーとプランニングだと言いたいと思います。

交通は歴史的に受身であり、需要に対して、いかに安全で優れたサービスを、渋滞も起こさないように提供するかがベースでした。しかし、今の時代はもっと積極的に社会の価値を先導するぐらいの提案をしていけるような、フィロソフィーを持たなければいけません。土木技術者 1 人 1 人がフィロソファーにならなければいけないと司馬遼太郎が言った 30 年前の状況と比べれば、今は都市とか交通、我々の生活に関わる分野の研究者、実務者はみんなフィロソファーでなければいけないと思います。そういうことがどうやってできるかは、大きな課題です。一つだけ例示しますと、歩道上で自転車と歩行者が混乱する日本の姿は、30 年以上前に、ほぼフィロソフィーもなく、自転車が車道では危ないと言って、歩道に入れたことに始まりますが、その後思考停止になって、そのままの状態になっています。一例ですが、我々はしっかりとフィロソフィーを持たなければいけません。

一方で、プランニングについて今必要なことは、地域あるいは国民を含めて、ある種の将来を共有して、協働という精神のもとで、何かを達成できるような計画の体制や制度の仕組みを諦めずに作ることでしょう。言うのは美しく、実行するのは難しいですけど。これらの二つは、先ほど申し上げたセレクトアビリティに実は非常に関わってくると考えています。

スタンフォードの 3 人の研究者が書いたシステムエラーという本が昨年出て、スタンフォードが送り出してきたスタートアップに関しての内部反省本です。主なポイントは、テクノロジストが志向する最適化という頭の考え方は、今は危険だということです。我々はよくわかっています。エンジニアとかテクノロジストの非常にピュアな考え方だけでは社会を動かさないようにするためには、一方で、プランナーとして我々が持っている知恵をエンジニアの発想と融合させることが極めて重要な時代になっています。そういうことを運輸総合研究所では微力ながらしっかりと検討できるのではないかと考えています。

その本の中で、「人類の計画能力が技術の進歩に応じて、それと足並みを揃えるように備わっているのであれば、人類は幸せな、繁栄をできただろう」という 1932 年のアインシュタインの言葉が引用されています。ところが実際には、「3 歳児にカミソリを持たせるような状況になっている」というのが言葉の後半です。前後を知りたい方はその本を読んでもらえばいいのですが、今はそれ以上の状況になっているという見方もできます。新しいイノベーションを大いに謳歌する、どんどん促進するという面は我々のフィールドでもできるのですが、そのベースになるフィロソフィーとプランニングの二つのシステムについてはしっかりと考えていくことが必要です。それを研究所の中でもできれば良いと思っています。そのような、エンジニアリングとプランニングの両方のセンスを持つ人材を育てられることも非常に重要な時代と思います。

会長からの開会挨拶でもありましたように、本研究所は実務との橋渡しで、そして役に立つ研究を進めていくわけですが、短期的で実務的なことから、中長期的で基本的なことまで、あるいは先ほど来のテクノロジーをいかに導入するかということから、社会にどうやって受容していくか、合意形成していくかという課題まで、様々な課題に取り組むことが今重要な時代ですので、そういうことにぜひ楽しく夢を持って、多くの研究者の方々と進めていければ大変ありがたいと思っています。

引き続き研究所に対するご支援、ご協力をいただければ大変ありがたいと思います。本日は、長時間お付き合いいただき、どうもありがとうございました。

以上